

材料試験技術誌投稿のための仮書式

2010年4月5日版

English Title, If you prepare English document use blank, never delete!

材料一郎*、材料二郎**、材料三郎***

Abstract

This electric form is provided only for your convenience. This format may change due to difference of Versions, Mac/Windows. To prepare the abstract, If you want to use abbreviations, please use like SPM (Scanning Probe Microscope) or Scanning Probe Microscope (SPM), for instance.

Key words : Template for Author, Materials Research

1. 緒言

この書式は投稿の方が使いやすいように用意した書式です。コンピュータの環境等によっては、正しく機能しない場合がありますので、利用者の責任においてご使用下さい。このテンプレートに関する技術的なお問い合わせはご遠慮下さい。

この書式では日本語のみで45行×24文字×2段になるように調整されていますが、使用するフォントやお使いの環境によって変わることと、マイクロソフトワードの仕様により、印刷時と完全に同一ではありません。

この書式では、WindowsのMS明朝 10.5ポイント、英語はCourier New 10.5ポイントを使用しています。フォントの大きさを変更したり、MS明朝などの等幅フォントからMS P明朝などに変更したりすると、文字数が変わります。

推奨しているフォントは Windowsでは

日本語はMS 明朝、MS ゴシック

英語ではTimes New Romanでなく、Courierなど、いわゆる等幅フォントをお使いください。

日本語：MS明朝、英語：Courier Newの例：

Table 2に実験に用いた各試料の形状および機械的特性について示した。

日本語はMS明朝、英語はTimes New Romanの例：

Table 2に実験に用いた各試料の形状および機械的特性について示した。

と一文字ずれます。

原稿受付 2009年1月4日

原稿受理 (論文・寄書では受理日が入ります)

* 材料試験技術協会 編集部長

Ichiro ZAIRYO

(Managing Editor, Material Testing Research Association of Japan)

** 材料大学大学院工学研究科材料工学専攻

Jiro ZAIRYO

(Materials Science, Graduated School of Engineering, Zairyo University, Tokyo Japan.)

2. 記入の際の注意など

2.1 章、節、項について

2.1.1 章について

章は上記のように「2. 」としセンタリングする。ゴシック体・太字が見やすい。章の前には1行空白行を設ける。

2.1.2 節・項について

節・項は、「2.1.1」のように表記し、空白行は作らない。

2.2 句読点

句読点には、「,」(全角コンマ)と「。」を用いてください。

3. 図・表について

3.1 図について

図はなるべく一段に縮小した時に見やすいサイズとしてください。ページ数の目安となるように査読・校閲用には図は本文中に張り込んでいただくようお願いいたします。また印刷用原稿として、A4サイズに大きくしたのも別途添付する必要があります。

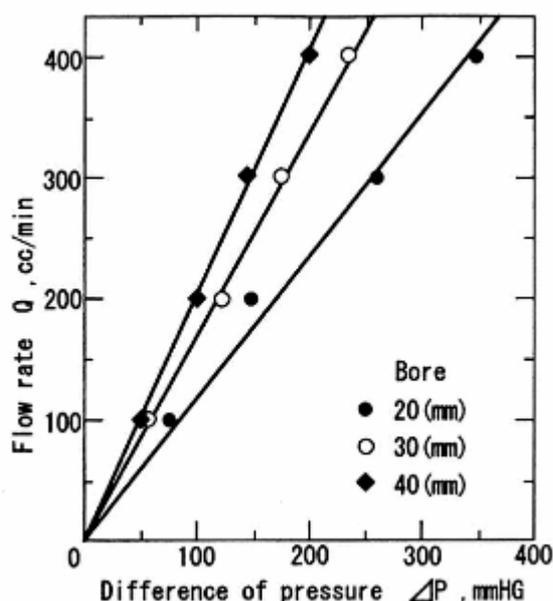


Fig. 1 Typical example of figure.

3.2 表について

表では キャプションは上部になります。図と同様に本文へ張り込みをお願いします。

3.3 数式について

数式はワードなどにより直接入力いただく方法と図として張り込む方法があります。

$$H = F / A \quad (1)$$

のように、わかりやすく、なるべく行数を少なくするようにお願いします。

参考文献

- 1) 著者名:雑誌名, 巻, (号), 頁(西暦).
- 2) 材料一郎, 材料二郎, 材料三郎: 材料試験技術: **54**, 4, 234(2009). (雑誌の場合)
- 3) Ichiro Zairyo, Jiro Zairyo and Saburo Zairyo: J. Mat. Test. Res. Assoc Japan: **54**, 234(2009). (英語の場合)
- 4) 著者名: 書名: ページまたは章(西暦発行年), 発行所.
- 5) 中村雅勇: 硬さ試験の理論とその利用法: 142 (2007), 工業調査会.
- 6) D.Tabor: The Hardness of Metals: V (2000), Oxford Univ. Press.
- 7) ISO 6508-3(2005)もしくは ISO 6508-3: Metallic Materials -Rockwell hardness test- Part 3(2005).
- 8) 材料一郎, 材料二郎, 材料三郎: “新しい硬さについて”: 材料試験技術協会硬さ懇話会(2005.1).
- 9) I. Zairyo: “New Rebound Hardness”: Proc. of X IMEKO World Congress (CD): (2009).